

不偏心

(Indifferentia)

かたよりのない心



1.
人間が造られたのは、主なる神を賛美し、敬い、仕えるためであり、こうする事によって、自分の靈魂を救うためである。又、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を達成する上で、人間に助けとなるためである。（靈操 23）
2.
従って人間は、そのものが自分の目的に助けとなる限り、それを使用すべきであり、妨げとなる限り、それから離れるべきである。（靈操 23）
3.
であるから、私達の自由意志に任せられ、禁じられていないものであれば、全ての被造物に対して偏らない心を育てなければならない。（靈操 23）
4.
不偏心とは
 1. 「なんでもいい」...ではありません
 2. 靈的疲れでもない...
 3. 感情的なものでもありません...
 4. 心の自由である
5.
聖イグナチオは、不偏心を4つの明確なカテゴリーに分けています。
 5. 病気よりも健康を、
 6. 貧しさよりも富を、

不偏心

(Indifferentia)

かたよりのない心

7. 不名誉よりも名誉を、

8. 短命よりも長寿等を

欲する事なく、ただ私達が造られた目的へよりよく導いてくれるものだけを望み、選ぶべきである。(霊操 23)

6.

私たち又私たちを取り囲む世界は絶対的なものではありません、相対的なものである。

絶対者は神だけです。

7.

不偏心は可能か？

手段と目的の調和を可能にするためには、「不偏心になる」ことが必要です。これは神の助けがなければ人間にとっては不可能に近いことです。



エレミヤ書 18:1-6

¹主からエレミヤに臨んだ言葉。 ²「立って、陶工の家に下って行け。そこでわたしの言葉をあなたに聞かせよう。」 ³わたしは陶工の家に下って行った。彼はろくろを使って仕事をしていた。 ⁴陶工は粘土で一つの器を作っても、気に入らなければ自分の手で壊し、それを作り直すのであった。 ⁵そのとき主の言葉がわたしに臨んだ。 ⁶「イスラエルの家よ、この陶工がしたように、わたしもお前たちに対してなしえないと言うのか、と主は言われる。

不偏心

(Indifferentia)

かたよりのない心

見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある。

愛着から離れる恵み

不偏心、あるいは愛着からの離脱の恵みは、わたしたちがよく祈り求めるものです。それは、わたしたちが自分の希望や恐れや心配の結果を神にゆだね、何が起こっても「神の恵みのみでこと足りる」という信頼をもつ場所にあります。

([https://shomeiteam.wordpress.com/2013/02/26/不偏心 \(indifferentia\)/](https://shomeiteam.wordpress.com/2013/02/26/不偏心 (indifferentia)/))